

所 沢 市 平和推進事業のまとめ

平成 2 9 年度

経営企画部企画総務課

所沢市平和都市宣言

武蔵野の緑豊かな自然のなかで、やすらぎに満ち、健康で生き生きとした日々を送ることが、私たち市民共通の願いです。

私たちは、国是の非核三原則を厳守し、戦争という過ちを繰り返さないことを願うとともに、限りある資源を大切にし、かけがえのない地球環境を守り、平和な世界が確立されることを強く望みます。

所沢市民は、基地全面返還を求め、未来に向かって平和な社会を築くことを誓い、ここに平和都市を宣言します。

平成2年6月22日議決、同年7月1日告示

目 次

広島平和記念式典参加事業	1
所沢市平和大使「広島平和記念式典参加」感想文	5
所沢市平和を語る会（語り部派遣事業）	12
所沢市平和祈念資料展	17
資料編	19
所沢市平和推進事業の歩み	20
広島市旧庁舎被爆敷石について	21



広島平和記念公園・原爆死没者慰霊碑

広島平和記念式典参加事業



原爆ドーム
(広島平和記念公園内)

《広島平和記念式典参加事業概要》

【 期間 】平成29年8月5日(土)～6日(日)

【参加者】市内在住の高校生1名、中学生4名
市議会代表2名、事務局2名
計 9名

【 概要 】毎年8月6日に執り行われる「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島平和記念式典)」に参加し、原爆死没者を追悼し、世界の恒久平和を願うものです。

さらに、広島市内の被爆施設や平和記念資料館への見学も行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを実感する機会となっています。

市民代表の方が一緒に参加される現在の形になって今回で27回目となります。また、平成19年度からは、市民代表者の対象者を中学生から大学生までの方としています。

この事業は、戦後72年が経過し、唯一の被爆国であることを風化させないためにも、将来を担う若い世代の方が被爆地である広島に赴いて式典に参加し、実際に見て触れることで、原爆死没者への追悼や戦争の悲惨さ、平和の尊さを再認識していただくためのものです。

行程

8月5日(土)

所沢市平和大使(市民代表)5名と市議会議員2名を含む参加者一行は、所沢駅で出発式を行い、新幹線にて広島へと向かった。

広島では、平和記念公園を訪れ、原爆慰霊碑に市及び市議会の代表として生花を捧げ、原爆死没者の冥福を祈った。また、平和記念資料館、原爆の子の像、原爆ドーム、被爆爆心地(島外科)の見学を実施し、初日の行程を終えた。

- 8 : 4 5 所沢駅集合
- 1 4 : 2 7 広島駅到着(新幹線にて)
- 1 6 : 1 5 平和記念公園へ
(献花、平和記念資料館や原爆ドーム等の見学)

8月6日(日)

式典当日は、早朝に宿泊場所を出発し、会場である平和記念公園に到着。

午前8時から「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式」が開式され、原爆死没者の名簿の奉納、代表による献花の後、原爆投下時刻の午前8時15分、平和の鐘を合図に参列者全員で黙とうを行った。

次に広島市長による平和宣言、こども代表の誓いのことばと続き、安倍首相、国際連合事務総長などから挨拶があった。最後に会場では「ひろしま平和の歌」を合唱し、午前8時45分に閉式となった。

式典終了後、広島駅に向い帰路についた。

- 7 : 2 0 平和記念公園へ
- 8 : 0 0 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式開式
- 8 : 4 5 広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式閉式
- 1 2 : 0 3 広島駅発(新幹線にて)
- 1 7 : 2 2 所沢駅着(解散)

なお、5ページから平和大使の皆さんの感想文を掲載させていただきました。



平和大使委嘱式



慰霊碑に献花



原爆ドームの前にて



「原爆の子の像」にて千羽鶴の奉納



式典の様子

平和大使感想文

(順不同)

「広島平和記念式典に参加して」

富田 菜月

私が今回「広島平和記念式典参加事業」に応募したきっかけは今年の春、家族で長崎の平和公園や長崎原爆資料館を訪れ、原爆投下後の街の様子や被爆者の話を聞き、人々の苦しみや悲しみを感じました。

そこで、原爆の最初の被爆地である広島を訪れ、長崎との被害の違いなどを実際に見てみたいと思ったからです。

戦争については学校の授業で学んだり、本を読んだり、小学生の時に語り部の方が話をしに学校にきてくださって聞くことができたので、分かっているつもりでいました。でも、実際に広島を訪れ資料館を見学したり平和記念式典に参加して改めて原爆の恐ろしさを痛感しました。

今回の事業の中で一番印象に残っているのはやはり「広島市原爆死亡者慰霊式ならびに平和祈念式」です。その中で一分間の黙祷がありました。私は黙祷の間に七十二年前に何があったのだろうかとか、当時の人々はどんな気持ちだったのだろうかと考えていたら心が痛くなり、一分間がとても短く感じました。広島市長の平和宣言は核兵器を二度と使ってはいけない、世界で唯一原子爆弾が投下された日本だからこそ分かる核兵器廃絶への強い意志が感じられ、これから日本を背負っていく私達はそれを引き継いでいかなければいけないと思いました。

広島市長の言葉で一番心に残っているのは「きのご雲の下で何が起こったのかを知り、被爆者の核兵器廃絶への願いを受け止めた上で、世界中に「共感」の輪を広げていただきたい」という言葉です。また、広島市の子供たちの平和の誓いでは、戦争で失った物の重みが伝わり、子供たちがとらえた戦争への思いが心に突き刺さりました。

私がこの事業の応募理由にあげた広島と長崎の被害の違いなどは原爆資料館で知る事ができました。爆弾の大きさの違いや、亡くなった方の人数の違いなど様々ありますが、一番の違いは被害にあった建物が七十二年たった今でも残されているという点です。鉄骨がむき出しになった原爆ドームがそれですが、これは「負の遺産」と言われる戦争の象徴的な建物です。世界中の人々に実際に目で見てもらい核兵器の恐ろしさ、平和の大切さをもっともっと知ってほしいと思いました。

今回、とても貴重な体験をさせていただきありがとうございました。原爆資料館が工事中で半分しか見ることができなかつたのが心残りです。いつか機会を作って再び広島を訪れてみたいです。

「広島で学んだこと」

村林 丈

今回平和大使に応募したのは、小学校で読んだ「はだしのゲン」がきっかけです。原爆の落とされた広島を自分の目で見たいと思いました。応募したときは、まさか当選すると思っていたので驚きましたが、市民代表として広島に行くことに、うれしさと責任を感じました。

楽しみにしていた広島は、人もビルも多く一見見慣れた町のように感じましたが、歩いていた歩道わきには、爆風で右半分が無くなりねじ曲がった井戸のポンプがあったり、原爆の爪痕は今も残っていました。中でもやはり原爆ドームの大きさと崩れたレンガには驚きました。あれだけの建物を一瞬で破壊した原爆の威力を目の当たりにして、言葉が出ませんでした。とにかくここは、七十二年前の悲惨さを間近で感じられる場所なので、行ったことがない人は、必ず行ってもらいたい所だと思いました。

資料館には、生々しく恐怖を感じてしまう写真もありました。原爆症の人たちの写真です。

原爆は落とされた後も人々を苦しめ続ける、非常に恐ろしい兵器ということ改めて知りました。そして、何の罪もない人たちを巻き込んだ「戦争のおろかさ」と「平和の尊さ」を深く実感しました。

この二日間は、貴重な体験をすることができました。自分の力で伝えられるのは、限られた事だけかもしれませんが、現地を見たこと、感じたことをまずは周りの人たちに伝えていきたいと思います。

「命の尊さ」

滝本 陽大

僕はある日 1 枚の新聞を目にしました。そして、それは、広島「平和推進事業」の募集の案内だったのでした。

そして 8 月 5 日がやってきました。その日平和記念資料館、原爆ドーム、そして、爆心地の「島外科」そして、標的にした「相生橋」に行きました。

平和記念資料館では、物事の説明の書いてあるもの、遺品、写真などがありました。そして、写真の中には、病気や体のとけた人の写真もありました。どの人も悲惨な状態になっていて、そして、悲劇的な死をむかえました。そして原爆ドームも、外壁はくずれ、がれきが散乱していました。これはすべて、戦争、そして、核兵器という人工的なことにより、人々の命は奪われ、家族は引き裂かれて、文明は破壊されたのだと思いました。そして、これは、人々の心までも破壊していったのだと思いました。

平和記念公園には、たくさんのものでありました。(建造物)これらは、1つ1つのものに意味と気持ちがこめられていました。

8月6日、平和記念式典が始まりました。この平和記念式典では死没者名簿の奉納や、平和の誓いや、市長の話、首相の話など、たくさんの人たちの話があり、その話には、それぞれの思いがつまっていました。そしてこの 2 日にわたる「平和推進事業」は幕を閉じました。

この 2 日間を終えて、核や、戦争は、簡単にゲームのように人の命を奪って行き、1人、また1人と大切な人の命は失われていくということを思いました。命を失えば、人は死ぬ、死んだ人間は生き返れない、人がどれだけ祈っても、もどってこないものであり、命は尊き、人が人を殺すというのは、この世界にはあってはならないことだと思いました。核、戦争が無くなることを祈っています。貴重な体験どうもありがとうございました。

「平和記念式典に参加して」

千葉 文乃

私は8月5日と6日に所沢市の代表としての広島に行き平和記念資料館の見学、原爆ドーム、広島平和式典への参加を主にさせていただきました。

特に私の心に残ったのは平和記念資料館です。そこにはその原爆の被害を受けた人たちの見た光景などが描かれた絵が展示されていました。人が道沢山に転がっている絵、赤ちゃんを抱えて死んでいるお母さんの絵、水を求めている絵などがありました。その絵の色は普段使われないような黒めの赤が多く使われていました。どれだけ原子爆弾が恐ろしいのかを物語っていたような気がします。またそこには、原子爆弾が広島に落とされ一瞬で町が消えるという映像が流れている所がありましたし原子爆弾が落とされた時に見つかった眼鏡、バック、瓶などが展示されていました。眼鏡はとても分厚いレンズが割れていたし瓶はぐによくによしていました。こんなに硬いものが普段普通に過ごしていたらぐによくによするはずがありません。

よく原子爆弾を受けて皮膚が垂れてしまうということを聞きます。瓶を変形させてしまうその温度はどれだけ高いのかを物語っていますし皮膚が垂れてしまうような温度を直接受けていたらどれだけ痛いのだろう。と痛々しくなるし、そのようなことをされた人たちもかわいそうだと思います。

このようなことから、私は原子爆弾の怖さを改めて知りました。また、このような苦しむ人たちはもう増やしてはいけないと思います。これをもう繰り返さないためにはまず戦争をなくすこと、原子爆弾をこの世界から消すこと、この起こったことの怖さを多くの人に知ってもらうこと。このようなことを私は率先してやりたいです。また、本などを見てこのようなことをもう少し深く知ろうと思いました。

このようなものを行っていただきありがとうございました。広島平和式典などとても貴重な体験をすることができました。本当にありがとうございました。

「核のない世の中」

山中 志音

私は今回広島に行き、たくさんの経験をすることができました。平和記念公園で、原爆慰霊碑への献花をしました。遺族の方々、県外、海外の人々、たくさんの方が献花をしている姿を目の当たりにし、原爆がどれだけの人々に影響を与えたものだったのか、思い知らされました。

次に平和祈念資料館に行き、広島の様子を見てきました。核兵器廃止への強い思いがあふれていて、平和の大切さについて学ぶことができました。いまだに続く「核実験」。広島市はそれに対して抗議文を各国に送っていて、1968年9月9日フランスの水爆実験に対して抗議電文を送ったのが始まりでした。その抗議文の数は今日までで609通に上るそうです。「609通」ということは、その抗議文の数だけ世界では核実験した国々があるということです。私はこれを見て「核のない世の中」というのはまだまだ遠いなと思いました。

昨年アメリカ元大統領のオバマさんは、「私たちは戦争の苦しみを体験しました。共に、平和を広め核兵器のない世界を追求する勇気を持ちましょう。」というメッセージを日本にしてくれました。オバマさんのように勇気を持ち、原爆によって失うものや被爆者の心身への深い傷はどれだけ恐ろしいものなのかを強く世界へ伝え、世界の人々が今一度核は残忍な存在でしかない、愚かなものであることを、感じ取ることができたなら「核のない世の中」は、それほど遠くはないと思います。

そして翌日8月6日に平和記念式典に出席しました。資料館で平和について学んだあとだったのでいろいろな思いの有る中で式典に参加し、世界恒久平和実現への願いを新たにしました。まず並ぶ前に、ボーイスカウト、ガールスカウトたちが通った人みんなに花と千羽鶴を作るための折り紙などを配っていて、しかも平和実現のために声掛けなどをしていて、この広島の声が世界にも届いたらどんなにいいことだろうかと思いました。そのほか配られたプログラムには、必ず日本語の隣に英訳されており、原爆の恐ろしさを世界中に発信するという強い思いを感じました。参列国は、80か国を超えていました。それもきっと広島から日本、日本から世界へ、「共感」の輪が広がっているからだと思います。でも、核廃止には人々の心にもその声が届かなければいけません。広島市長の松井さんは平和宣言で核兵器は今、一発の威力が72年前の数千倍にもなっていると話していました。72年前の「広島空」の話を、『聞くだけ』でも恐ろしいと思える原爆。その威力が数千倍にもなって今もなお存在していると思うと、とても怖いです。被爆者の人たちは私が感じる怖さの何倍、何十倍の不安と怖さ、怒りを感じているに違いありません。しかし、被爆者の中で原爆について語り、講演してくれる方は、被爆者の高齢化、あまりの恐怖体験で思い出したくないなど、色々な理由で、数が少ないと思われます。勇気を振り絞り、後世へ伝え、思い間違いを犯さないように語ってくれている被爆者の核兵器廃止への願いを私たち世代が受け止め、粘り強く世

界の人々に伝えていく、必要があると思います。

私は広島を訪れて、核はどれほど恐ろしいものであるか、平和の大切さ命の重みを学ぶことができました。平和記念館の資料の中にある熱で変形したガラス、放射線障害や健康不安などを見て私はショックのあまり言葉を失いました。周りには海外の方もたくさんいてその人たちも写真や、英訳された文を見ているうちに顔色が変わるのがすぐにわかりました。核保有国の国々に核兵器は安全保障にとって何の役にも立たないということを、教えてあげたいと思いました。それは、かなり時間のかかることだと思います。もし伝わっていたのであれば広島市が他国に送っている核実験への抗議文なんてこの世に存在しなかったでしょう。でも広島に、海外の人が来てくれたということは、「NO 核保有」広島や長崎の人々を中心とした日本の運動が浸透し、共感してくれた人々が多数いるということだと思います。そしてそれらの人々からさらに、核の愚かさ、平和について、被爆した経験を持つ広島について、家族、親友、知り合いに話してくれれば、世界中に「共感」の輪は広がると思います。

日本も、「民主主義国であるためには平和国家でいなくてはならない」ということを再確認させる努力が必要であると思いました。

世界恒久平和実現へ今、誰もができることは、世界友好を祈る、世界中の人が過去の負の経験から目を背けず理解し、核は悲劇しか生まないものであることを風化させない行動を今後も取り続けていくことであると思います。平和な世界を共存、分かち合えるように私は責任ある行動をとり、これから私が何をしていくべきなのかを模索していきたいと思います。

所沢市平和を語る会 （語り部派遣事業）



中島 寿々江さんによる講話の様子



杉本 孝一郎さんによる講話の様子

《平和を語る会（語り部派遣事業）実施概要》

【 概要 】

被爆体験者・戦争体験者の語り部による講話を市民の方に対して行い、平和の尊さ、命の大切さを訴えます。

平成29年度は平和学習の一環として、市職員と小・中学校の児童・生徒を対象に実施しました。

【 実施日 】

- 平成29年 6月16日 宮前小学校 4年生
語り部：杉本 孝一郎さん
- 8月18日 所沢市役所
語り部：杉本 孝一郎さん
中島 寿々江さん
- 9月22日 三ヶ島小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 9月25日 東所沢小学校 6年生
語り部：杉本 孝一郎さん
- 10月 6日 南小学校 6年生
語り部：杉本 孝一郎さん
- 10月20日 和田小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 10月25日 牛沼小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 11月 2日 椿峰小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 11月 2日 並木小学校 6年生
語り部：杉本 孝一郎さん

- 1 1月10日 中央小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 1 1月15日 北秋津小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 1 1月21日 伸栄小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 1 1月29日 松井小学校 6年生
語り部：杉本 孝一郎さん
- 1 2月 1日 北中小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 1 2月 6日 所沢小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん
- 1 2月11日 柳瀬小学校 6年生
語り部：中島 寿々江さん

合計 16回開催 参加者数 1,294人

年度	実施回数	参加者数
平成20年度	14回	1,197人
平成21年度	12回	988人
平成22年度	12回	1,369人
平成23年度	12回	1,212人
平成24年度	12回	909人
平成25年度	12回	1,143人
平成26年度	12回	1,103人
平成27年度	16回	1,549人
平成28年度	16回	1,314人
平成29年度	16回	1,294人

講師紹介

なかしま すずえ
中島 寿々江さん

小学校6年生の時、広島市内の爆心地から500mの距離にある家（大手町）に祖母と生活していました。当時、ご両親は仕事で四国に住んでいましたが、四国が空襲の被害を受け、広島に戻ってきていました。

夏休みということで、原爆投下の数日前にたまたまご両親の住む家（3kmほど離れた大洲町）に移っていたため大事には至りませんでした。祖母や多くの親戚の方々を亡くされました。

被爆の体験をもとに当時の広島の様子や被爆当時の状況などから、戦争の悲惨さを訴えます。

今まで、被爆のことを人に話すことは避けていました。本当につらく、悲しい記憶だったものですから。しかし、私も歳を重ね多くの仲間がそうしているように、原爆の恐ろしさ、戦争の悲惨さを次世代に語り継ぐべきではないかと思うようになりました。

多くの方に原爆の話をする事、それが原爆に苦しめられた私の使命なのかもしれません。

語り部の活動を通して、話を聞いてくれた小学生の皆さんから励ましや健康を気遣うお手紙、平和に対する強い思いなどをお寄せいただき、私自身の励みとなり、これからも語り部を続けたいという確かな気持ちになりました。

すぎもと こういちろう
杉本 孝一郎さん（市内在住）

戦争が激しさを増した昭和20年2月、当時13歳のとき、艦載機からの機銃掃射の中、二人の幼い妹の手をとり、雪降る中を裸足で、必死で逃げました。その年の3月10日、一夜にして10万人もの尊い生命が失われた東京大空襲で自宅も焼失してしまいました。

東京大空襲などの話を中心として、現在と当時の様子の違いを伝えながら、平和の尊さと命の大切さを訴えます。

私は、平成17年に広島平和記念式典参加事業に所沢市民の代表として参加したことが、語り部を行うきっかけでした。広島の実相を知り、私にも戦争の悲惨さを語っていく使命があると一念発起したのです。

昭和20年当時、中学1年生だった私は、連日の空襲から逃れるため東京から新潟へ疎開したので、3月10日の東京大空襲からは難を逃れましたが、自宅や友人がどうなっているのか心配でした。

父と上京したときの東京は想像を絶するものでした。上野駅に降りて見た景色は死臭ただよう焼け野原で、戦争孤児といわれる親兄弟を亡くした子どもたちもたくさんいました。食べ物はもちろんのこと何もない時代でした。

何もない時代を生きた者から言わせていただければ、今は本当に恵まれており、全てに感謝して、命を大切に、そして平和が尊いということを実感してほしいと思います。未来は、若い世代の方がつくるものですから...

所沢市平和祈念資料展



《平和祈念資料展概要》

【概要】

市役所及びまちづくりセンターにおいて、市所有の広島・長崎の被爆関係パネル等を展示し、戦争の悲惨さ、平和の尊さの啓発をしました。

【開催期間および場所】

平成29年8月 2日～8月15日：市役所1階市民ホール

8月17日～8月22日：小手指公民館分館

【展示内容】

《所沢市役所市民ホール》

- ・広島・長崎原爆写真パネル
- ・記録図書の閲覧

《その他の施設》

- ・広島・長崎原爆写真パネル

資料編

所沢市平和推進事業の歩み

- 昭和59年 2月 広島市より原爆の熱線を浴びた広島市旧庁舎内の敷石が所沢市に寄贈される。
- 10月 市長ら一行が広島市を表敬訪問
- 昭和60年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 11月28日 所沢市広島原爆資料展を開催する。(中央公民館講堂)
- 11月30日 市制35周年記念事業として所沢市平和講演会を開催する。
- 昭和61年 8月 6日 市長・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 昭和62年 1月 新庁舎西口広場に広島市旧庁舎内の敷石を設置する。
- 8月 6日 市長・市議会・市代表らと市民代表が広島平和記念式典に参列する。
- 昭和63年 8月 6日 市長・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成 元年 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市長・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 2年 7月 1日 所沢市平和都市宣言制定(告示)
- 8月 6日 助役・市議会代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 8月 9日 市代表・市議会代表らが長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成 3年 7月30日 市庁舎広告塔に懸垂幕を設置する。
- 8月 6日 市民・市議会・市代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 10月26日 第12回所沢市民フェスティバルに出展する。
- 平成 9年 11月13日 所沢市平和祈念絵画展「テレジンの子供たちが描いた絵」を開催する。(市庁舎)
- 平成17年 8月25日 所沢市平和祈念資料展を長崎市の全面協力を得て開催する。併せて長崎市からの「語り部」講話会を開催する。
- 平成18年 8月 8日 平和を語る会(語り部派遣事業)を開始する。
- 平成20年 2月28日 平和市長会議に加盟する。
- 平成21年 8月 6日 市長・市議会・市民代表らが広島平和記念式典に参列する。
- 平成22年 8月 9日 市長が長崎平和祈念式典に参列する。
- 平成27年 8月15日 「戦後70年所沢市平和を語る会」開催
- 平成27年10月 7日 平和を語る会(語り部派遣事業)の参加者が1万人を超える。

広島平和記念式典への参加については、昭和60年から毎年実施しております。

広島市旧庁舎被爆敷石について

昭和59年、当時の所沢市長が広島市との交流を深めていたことから、広島市から旧庁舎のまわりに敷きつめられてあった御影石でできた敷石が当市に恵贈されました。

所沢市では、新たな庁舎建設が始まろうとしていたことから、新しい所沢市庁舎西口玄関前の広場に「広島市旧庁舎被爆敷石」を設置いたしました。

この敷石については、市民からの要望により、毎年8月に献花・献水を行っています。なお、この敷石のモニュメントには、以下の内容が刻まれております。

この石は、広島市に原子爆弾が投下されたときに、同市庁舎前の敷石としてあったものを本市の平和への限りない願いと世界平和の祈念のため、とくに広島市の御好意により、昭和59年2月に譲り受けたものです。次の言葉とともに...

No more Hiroshima



MEMO



所沢市イメージマスコット
トコロん

平成29年度 所沢市平和推進事業のまとめ

平成30年3月発行

編集・発行 所沢市経営企画部企画総務課

所沢市並木一丁目1番地の1

電話 04 - 2998 - 9046

E-mail a9046@city.tokorozawa.lg.jp